



布施だより

《 第49回 銀河祭 ～ すてきな時間をありがとう! ～ 》

第49回銀河祭、多くの皆様に生徒の活躍を見守っていただき本当にありがとうございました。たくさんの笑いに包まれた心に残る銀河祭を、生徒会担当顧問の齋藤貴弘先生がレポートします。

9月26日、27日に今年度で49回目となる銀河祭が開催されました。一日目は音楽会が行われ、各学級、学年の良さが詰まった歌声が体育館に響きました。2日目は洋裁部、合唱部、吹奏楽による華やかなステージ発表。生徒会による委員会一企画では全校で盛り上がり、西中生のパワーが盛大な熱気をつくりあげました。

今年度のテーマは、「658のSTORIES～光り輝く永遠の思い出を～」。閉祭式では全校ダンスで一体となり、今までの振り返り映像が流され、全校の輝きを共有して、その幕を閉じました。地域の多くの皆様に足を運んでいただき感謝しております。来年度の第50回に向け、更に活気に満ちた生徒会活動を展開していきたいと思えます。

【 生徒会長 齋藤柊さんのことば ～閉祭にあたって～ 】

多くのみなさんの努力と協力のおかげで、第49回銀河祭も無事終了することができました。ありがとうございました。

今年のスローガンは「658のSTORIES ～光り輝く永遠の思い出を～」でした。忘れられない永遠の思い出とストーリーをつくることができました。この2日間のために、各クラス、部活、生徒会、それぞれが力を合わせ、一生懸命準備してきました。そして本番では今までの練習の成果を発揮し、一人ひとりが自分の役割をしっかりと果たすことができたのではないのでしょうか。

今年の銀河祭で感じる事ができた仲間との絆は、これからもきっと僕たちの支えになると思えます。学んだことをいかして、これからも仲間と共に色々なことに挑戦し、お互い高めあっていきたいと思えます。

第49回銀河祭のために力を注いでくれた先生方、全校のみなさん、地域の方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

2日間を通じてとても心愉快だったのは、生徒諸君が相手意識をきちんとわきまえたパフォーマンスを心がけていたから。聴いてくれているオーディエンスをいかに楽しませようかという気遣いとそれを受け止めた会場全体が、笑顔といたずら感一杯に包み込まれたのでしょね。

またひとつ、篠西中生徒諸君の誇りが育ったひと時でした。



《 第1回長野上水内中学校連合音楽会 》

第1回長野上水内中学校連合音楽会壮行会が10月7日(火)、2学年諸君主催でありました。3学年諸君の『空も飛べるはず』『信じる』2曲を、顔を上げてじっくりと聴き入る1・2学年諸君。上級生と下級

生がまっすぐに交流しあった瞬間です。銀河祭の頃より、いっそう熟成した歌声に心寄せたひと時でした。壮行会では3学年を代表して東方涼太郎さんが決意を語ってくれました。

今まで私たちは、西中学校の代表としてふさわしい発表をするために練習を重ねてきました。始めは声が小さかったり、話を聞いている時おしゃべりをしてしまったり、先生方に何度も叱られたり、注意を受けたりしました。銀河祭では、素晴らしい合唱ができたという自信があります。でも音楽会では、それを超えなければなりません。銀河祭後、永野先生・上原先生ご指導の下、だんだん声を出せるようになり、練習にも集中できるようになりました。

私たちは「背中で語る3年生になりたい」とずっと思っていました、なかなかそうなれていないのが現状です。だから音楽会では西中代表としてふさわしい発表をしてきます。そして1・2年生の目標と、先生方の思いに応えるような発表をしていきたいと思えます。「背中で語れる3年生」を目指して、会場を圧倒するような発表をしたいです。

今日は、本当にありがとうございました。

10日(金)ホクト文化ホールでは、西中学校自身の発表はもちろん、同年代の仲間の合唱やパフォーマンスに心打たれ、多くの収穫を得た3学年諸君でした。

音楽科の永野先生・上原先生から3学年諸君の「合唱にかけた思い」への返礼のメッセージです。



すばらしい合唱をありがとうございました。
朝練習の15分を積み重ねたこと。

「こうしよう!」と呼び掛けると、即歌声に反応があったこと。

何より歌うこと。

そのために、のめり込む姿を見ることができたこと。

合唱に心を感じる事ができたこと。

ありがとう

<永野先生より>

大ホールのステージで歌った気持ちはどうでしたか?きっと、と~ってもいい気分だったことでしょう。一生懸命に練習した分だけ、感動を味わえたことと思います。ステージの袖でみなさんの演奏を聴かせてもらいました。堂々とした姿、充実した歌声、素晴らしかったですよ。「信じる」という曲、私は大好きになりました。

これから卒業まで、辛いことや苦しいこともあるでしょう。でも努力した分だけ、いいことがあるという事を信じて、頑張ってくださいね。

<上原先生より>

~ ~ ~ ~ ~

生徒会諸君が行ってくれている「ありがとう運動」に触発されて、私の嬉しかった「ありがとう」です。

~先日、職員室の掃除中、新聞紙を束ねていたら、傍らでひとりの男子生徒がしばらく立っていました。掃除の邪魔をしているのかなと思い、『邪魔をしちゃったね、ごめんなさい。』と言うと『いいえ。それ(新聞紙の束)、持っていきます。』と、笑顔で両手を差し出してくれました。また、廊下のほこりを塵取りで取ろうとしていると『あっ、あとで私が集めて取っておきますから大丈夫です。』と。

自ら気づいて動いてくれたことももちろんうれしいのですが、その言葉遣いがキリッとしていて実にさわやかです。場面や状況に応じた言葉遣いのTPO。どこで身につけてくれているのでしょうか。

社会に出て通用するマナーや決まりを覚えることと同様に、何気ない心遣いの一言を伝えられる思いやりが、さわやかに人と関わろうとするいさぎよさが、西中の生徒たちの中に確かに育っています。~

